

いのちを守る対策を 栃木県に緊急事態宣言再発令 第8次緊急申し入れ(新型コロナ対策)

宇都宮民報

—発行—
日本共産党
宇都宮市委員会
弥生1丁目7-11
旭コーポ1階
TEL634-8722

政治経済の要する、
現実の声を伝える
しんぶん 赤旗
日刊 3497円
隔週 930円

右から酒井副市長、福田議員・天谷議員・原議員



自宅療養を減らせ!

主な内容は、①自宅療養では急激に症状悪化の可能性もあり極力自宅療養者を減らす対策をとること。②コロナ患者の入院病床を増やし、医療機能を強化した宿泊療養施設

全国的に新型コロナウイルスによる感染爆発、医療崩壊が深刻化するも、首都圏では自宅療養者が、医療にアクセスできないまま命を落とすなどの事態が広がっています。日本共産党宇都宮市議員団は市長に対して8回目になる緊急申し入れを20日に行いました。

を大規模に増設し、酸素吸入やカクテル療法など早い段階からの治療を開始できるようにすること。③確保病床を最大限稼働させるため、人員確保等必要な対策を講ずること。④自宅での療養がどうしても必要な方に対しては、酸素濃縮器やパルスオキシメーターなど必要な医療器具が不足することがないように対策をとること。訪問診療や訪問看護など医療従事者による経過観察ができるようにすること。⑤自宅療養者が必要な方には食事や日用品など生活物資を提供することもにきめ細やかな支援を行うこと。その他、現役世代へのワクチン接種を加速すること。子どもたちや高齢者に接する職場でのPCR検査を定期化すること、無症状のかたも気軽に検査をうけられるようにすること。持続化給付金、家賃支援給付金など2度目の支給を国に要求することなど9項目を盛り込みました。

要望書を受け取った酒井副市長・大沢保健福祉部次長と懇談しました。

悲惨な戦争繰り返すな!! 雨の8・15宣伝



左から野村県議、天谷市議、青木ひろし栃木1区国政対策委員長、福田市議、原市議の各氏

停滞する前線の影響で宇都宮も大雨の中、終戦の日を迎えました。青木ひろし栃木1区国政対策委員長を先頭に野村せつ子県議とともに宇都宮市議員団は、インターパークにおいて街頭から宣伝を行いました。

天気予報は

平和のシンボル

天谷市議は、「76年目の終戦記念日にあたり、戦争体験者が少なくなる中で太平洋戦争について語り継いでいくことが大切」と訴えました。原市議は、「戦時中は、天気予報が軍事機密となりラジオや新聞から一切消えてしまった。敗戦後、天気予報が復活したことで多くの国民が戦争が終わったと実感した。天気予報

共産党を強く大きく

青木ひろし栃木1区国政対策委員長は、新型コロナウイルスによる感染爆発ともいえる状況を作り出した責任は、東京オリンピックを強行した菅政権にあると述べました。日本共産党は一貫してオリンピック中止を訴えてきたこと。この感染拡大の中で命を守るための対策を訴え続けていると話しました。また、8月6日、9日の広島や長崎での菅首相の式典でのあいさつにふれ、核兵器禁止条約が今年1月に発効されたのに一言もないことは重大だと指摘しました。最後に司会も務めた福田市議からは、「今年10月までに必ず衆議院議員選挙が実施される。菅政権では新型コロナ

いよいよ総選挙 北関東一斉宣伝行動

8月20日、JR宇都宮駅前において宣伝行動を行いました。青木ひろし栃木1区国政対策委員長と原ちづる、天谷みえ子市議が参加しました。

手を振って応えてくれる高校生や立ち止まって聞いて下さる市民の方もいました。



ウイルス感染症から国民の命を守ることはできない。野党が結束して菅政権に代わる政権を樹立することが必要で、そのためにも今度の選挙で日本共産党を大きくしていただきたい」と訴えがありました。

平和の波行動

早朝7時30分から約1時間の行動でしたが、20名以上の方が各団体から参加し、一言ずつ平和のリレートークを行いました。

福田議員は今年の1月に核兵器禁止条約が発効したことを紹介し、「『日本も核兵器禁止条約の批准を』という世論が高まっている。しかし政府は後ろ向きであり、宇都宮市においても市長・議長ともに政府に対する批准を求める署名へのサインを頂けなかった。残念だ。」と語りました。

天谷議員は「核兵器と平和は相容れないもの。世界基準で核兵器が違法なものと決定された意義は大きい。日本もそれに参加する政府に変えていこう。」と通行中の人々に訴えました。

8.6 宮の橋宣伝



宮の橋で訴える福田市議(右端)



(左から) 野村県議、青木ひろしさん

8.9 シンボルロード宣伝

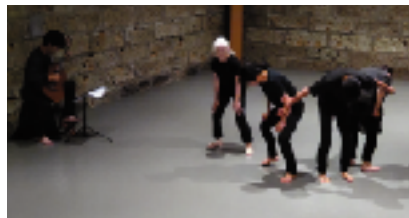
長崎に原爆が投下された11時2分を挟んで、約1時間の宣伝・署名行動が行われました。約20名の方が「核兵器禁止条約に参加しよう」等のメッセージがかかれた旗やプラスタ、うちわ等で行きかう人々に訴えました。中にはわざわざ自転車から降りて署名・募金をして下さった方や、「日本も条約に参加すべきだ」と語ってくれた方もいらっしゃいました。宣伝では宇都宮市原水爆禁止協議会の小牧一哉会長、荒川恒男理事、野村せつ子県議、青木ひろし栃木一区国政対策委員長、原ちづる市議等がリレートークを行いました。

グループきゆう公演 私たちは忘れない

グループきゆう(代表 豊口政子氏)は、「私たちは忘れない」という、広島原爆を題材とした舞台に22年前から取り組むチームです。

毎年少しずつ切り口を変え、そのたびに見る者も思いをはせる部分、想像する場面が変わり、新たな感動や発見を創り出しています。

鑑賞した原議員は、「ギターはやさしい音色・演者の力強い動きやせりふ。原爆が投下される直前まで続いていた市民の『普通の暮らし』が見えるような舞台だった。」と感想を述べていました。



原爆の惨状を伝える絵に衝撃 — 新婦人主催企画展 —

南図書館展示コーナーで、原爆パネル・絵画展と絵本の読み聞かせ等が、平和の波行動の一環として開催されました。広島の高校生が被爆者に聞き取りをしながら描いたという絵は現在63点になり、そのリアルな描写が圧倒的でした。多くの親子連れも見学しており、戦争や平和について考える良い機会になったのではないかと思います。



私のレッド・パーズ 久賀伊二 (92歳)

「反共は戦争前夜の声」とは確か革新京都府政の蜷川知事の言葉だったかと思えます。この党ががんばってこそ、平和と自由、民主主義が守られるのではないのでしょうか。私は老いてもなおこの隊列にいてがんばれることに密かな喜びと誇りも感じています。最後に現在の心境を一句。道まっすぐ白き山脈男体山

連載No.4、この党とともに 多くの犠牲者が生まれたこの一連の動きがレッド・パーズと呼ばれています。それから長いたたかいの日々が続きました。



ほっとコーナー

松が峰教会・蛙のガーゴイル

大谷石建築の松が峰教会は空襲にも焼け残りました。二〇〇四年に外壁に取りつけられたのが大谷石製のガーゴイル「カン蛙」です。ガーゴイルとは雨樋の吹き出し口で、西欧では魔物や怪獣の形に表されます。ここでは宮澤賢治の童話にちなみ靴をはいた蛙の姿に。



日本共産党宇都宮市議員団 定例無料 市政・法律なんでも相談会

雇用問題・多重債務・生活保護・年金・国保・住宅道路・交通安全・その他なんでも・・・

◇日時 9月11日(土) 午後2~4時
10月9日(土)

◇会場 宇都宮市総合 コミュニティーセンター

◇連絡先 日中 TEL632-2622 (党市議員団控室)
土・日・夜間 TEL634-8722 (党市委員会)

相談ご希望の方はできる限り事前にご連絡をお願いします。秘密厳守します。弁護士が協力します。

※新型コロナ感染症の状況によっては、変更または中止となる場合もあります。必ず事前にお問い合わせ下さい。